基地局等から発射される電波の強度等の測定方法及び算出方法の検討について

１. 検討の背景

① 我が国で利用される移動通信システムでは、高速かつ確実な接続をより広いエリアで実現するため、携帯電話の基地局等が数多く設置されてきた一方で、景勝地などでは景観に配慮して基地局の設置が制限されるケースもあった。携帯電話事業者等では、そのような場所での通信の確保のため、「地中埋設型基地局」を設置することが検討されているが、このような場合、アンテナが従来のように身体の上方ではなく、より身体に近い下方の位置に設置されることになる。

② しかし、従来、このような電波の利用形態は想定されていなかったため、そのような基地局等から発射される電波について、我が国では電波防護指針への適合性評価方法が確立されていない。

③ そのため、地中埋設型基地局など新たな無線システムに対応するための電波の強度等の測定方法及び算出方法について検討する。

④ また、国際電気標準会議（IEC）等の動向も踏まえ、基地局等からの電波の強度等の測定方法及び算出方法の見直しを検討する。

２. 検討事項

新たな無線システムや国際動向等を踏まえ、基地局等から発射される電波の強度等の測定方法及び算出方法について、以下の項目を検討する。

（１）地中埋設型基地局等の新たな無線システムから発射される電波の強度等の測定方法及び算出方法

（２）国際動向を踏まえた、基地局等から発射される電波の強度等の測定方法及び算出方法

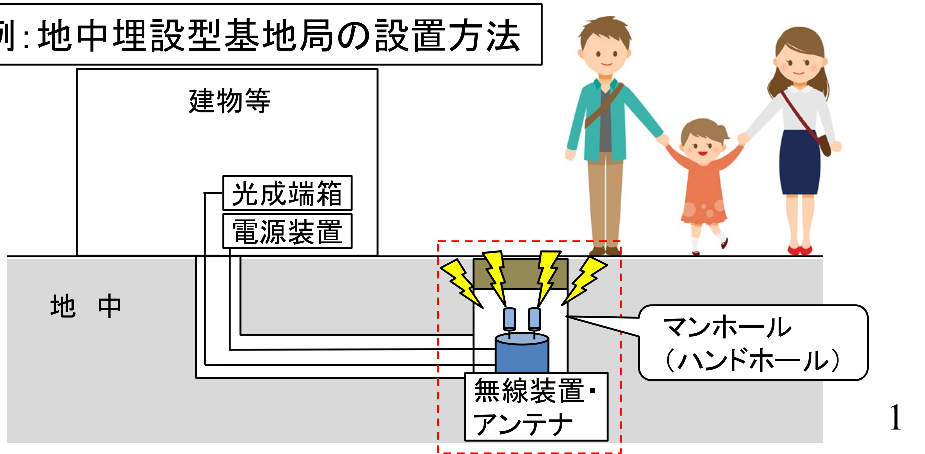
３. 今後のスケジュール（予定）

①令和２年１月
情報通信審議会に諮問

②令和２年１月～６月
電波利用環境委員会で検討

③令和２年７月頃
情報通信審議会における（一部）答申

例：地中埋設型基地局の設置方法



（参考）検討事項について

電波防護指針（管理指針）

※SAR(Specific Absorption Rate)：比吸収率

電磁界強度指針

- 電界強度
- 磁界強度
- 電力密度
- 磁束密度

主に基地局等の周辺の評価に適用されている。

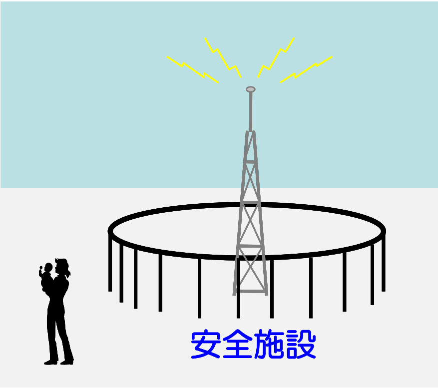
局所吸収指針

- 全身平均SAR
- 局所SAR
- 入射電力密度

主に携帯電話端末等の評価に適用されている。

新たな無線システム等に対応した
<u>測定方法及び算出方法</u>を検討する。

例：　鉄塔型基地局



例：　地中埋設型基地局

例：　携帯電話端末

検討スケジュール（予定）

	R1年 12月	R2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
情報通信審議会 情報通信技術分科会		△ 1/21 評価方法諮問						△ 一部答申	必要な規定の制定手続き				
電波利用環境委員会		△ 委員会開催（作業班の設置等）				△ 委員会報告（案）	パブコメ	△ 委員会報告					
作業班（仮）			△ 複数回開催し、議論 反映	△	△ 反映	△ 作業班報告（案）							
（参考）ARIB 基地局アドホック	12/25 △ 第8回 地中埋設型基地局の評価方法について、事業者の測定結果等を議論（第4回（7/17）から）		△ 第9回開催										
（参考）国際動向				△ ITU-T SG5 会合開催	△ IEC TC106 MT3 会合開催						△ ITU-T SG5 会合開催		